

海老名市立社家小学校 学校運営協議会 議事録
(令和8年度 第1回)

- 1 日時 令和8年6月8日(月) 13:30~15:00
- 2 場所 海老名市立社家小学校 会議室
- 3 出席委員 津々木美幸委員長、三田英樹副委員長、大乘文孝委員、佐々木宏文委員、曾我幸治委員、金子幸枝委員、金子秀徳委員、山中伸之委員、小松奈津美委員、尾崎由美校長、大部信介教頭、重岡咲子教諭

4 会議の内容

(1) 挨拶

津々木会長：梅雨入りが発表され、これから暑い夏がやってくる。皆さん、体調に気をつけながらやっていければと思っている。今年度も皆さんと協力しながら進めていきたい。よろしくお願いします。

尾崎校長：浅井校長のあとを引き継ぎ、精一杯やっていきたい。今年度は約430名ほどで学校生活がスタートした。1年生も元気に過ごしている。6年生は最高学年として落ち着いて学習に取り組むことができている。職員も初任者をはじめ着任者を迎えた。今年度は中学年専科(3年理科、4年算数)を置いている。英語専科も配属され、3・5・6年を担当してもらっている。また、「そだちの教室」(通級)が新設された。教育支援コーディネーターが専任化され、子ども達にとっても保護者にとっても相談しやすい環境になったのではないと思う。困ったこととしては、雨の日の路上駐車である。近所からの苦情の電話もよくある。警察の指導の下、校庭を開放したこともあったが、児童の下校と一緒にするときには、そのような対応は難しい。学校便り等を通して保護者の方のマナーやモラルをお願いしていく。子どもの安全を第一に考えていきたい。

(2) 委嘱状交付

4月より新規委員の金子委員、山中委員、小松委員へ委嘱状交付。

(春日井委員、米山委員は欠席)

(3) 自己紹介

(4) 令和8年度の学校経営方針について

尾崎校長：本校の学校教育目標は「心身ともに健康で、心豊かな子の育成をめざす」と

なっている。その目標のもと、教職員協力しながらやっていきたい。教職員に向けて、「子ども達を大切にしてほしい」ということを伝えた。児童指導、学習指導、保護者対応なども含めて子ども達一人一人を大切にしたい学校づくりをしていきたい。今年度の重点目標も「つながる力の育成」をテーマに、対先生・大人だけではなく、子ども達同士のつながり、地域とのつながりを大切にしていきたい。子ども達は地域の中で育っていくと思っている。地域の中に学校があるので、皆様のお力やお知恵を貸していただきたい。

（５）年間計画等について

重岡教諭：日課表について。昨年度と大きな変更はない。１年生も５校時授業が始まった。１学期の月・金は４校時で下校になり、１年生のみの下校となるため、地域の方達にも見守っていただければ。年間計画について、予定なので変更がある点、ご了承いただきたい。皆様にはすでに様々な行事等にご協力いただいております、感謝しているところであるが、今後大きな行事として、運動会を１０月３１日に予定している。また、ふれあい教室は今年度平日開催となり、来年度５０周年事業もあるので、昨年度とはちがった形での開催になると思う。引き続きご協力をお願いしたい。

（６）特色ある学校づくり実践事業計画について

大部教頭：（資料４）今年度の特色ある学校づくり実践事業計画について。海老名市内の小・中学校全てで組んでいる計画である。本校では５つの柱で取り組んでいる。

- １「校内研究の充実」について。研究主題「主体的に学ぶ」社家っ子をめざしてという研究テーマですすすめている。副題を今年度「納得いくまで追究する活動を通して」とし、子ども達自身が疑問に思ったことを自分達が納得するまで追究する活動を目指していこうと、研究主任を中心にすすめている。今年度は全学年、支援級が代表授業を行い、研究をすすめていく。
- ２「キャリア教育」について。昨年度も皆様のご協力のおかげで、とても有意義なものとなった。いろいろな職業に携わる地域の様々な方から貴重なお話を伺う機会となった。今年度も同様に３年生・６年生で実施していきたいと考えている。
- ３「インクルーシブ教育の推進」について。本校では支援級の児童も交流級に交じって学習を進めている。その子にとって一番プラスになる形を考えながら進めていきたい。学校づくりや学級づくりを学んでいきたい。研修会等で学びを進めていきたいと考える。
- ４「地域連携～野菜作りを通して～」について。昨年度も青健連さんのご協力のもと野菜栽培、収穫体験をすることができた。今年で三年目の

取り組み。本年度もぜひお願いしたい。収穫したときの子ども達の笑顔、袋いっぱい野菜を収穫できて得意げな子ども達の表情を見ると、かなり貴重な経験になっていることが分かる。

5「福祉教室～車いすバスケットボールを通して」について。2年前から5年生を対象として行われている。プロの車いすバスケットボール選手に来ていただき、話を聞くだけではなく、実際に競技用の車いすに乗って試合をするなど貴重な体験をさせていただいている。

大部教頭：(資料5)「令和8年度学校運営協議会実施計画」について。社家小学校の児童の実態や地域の特色等について記載されている。詳しくは資料を見ていただきたい。子ども・学校・家庭・地域が笑顔でつながる学校をスローガンに重点項目『つながる力』の育成を通してやっていきたい。いよいよ50周年に向けて委員会も立ち上げられ、動き出している。地域の方、また保護者の方からも力になりたいという声がたくさん出ている。今後とも様々な行事等でご協力をよろしくお願いしたい。

(7) 情報交換

津々木委員長：落ち着いて学習に取り組んでいる姿に成長を感じた。近所であいさつしても返してくれないことが気になる。低学年のときは気軽に話しかけてくれていたのだが、恥ずかしさが出てくるからなのか成長するにつれて、あいさつをしてくれない子が多く課題に思っている。

インクルーシブ教育について。有馬小でも机のことで話題になっていた。また小さい頃から人権の教育も必要なのではないかと考える。

三田委員：教育委員会の評価委員のほうで学校での裁量権の拡大をお願いしてきた。インクルーシブ教育について。小学校ではクラスで仲間意識をもって過ごし、中学校では、子ども達同士で手助けをしながら過ごしている。

大乘委員：デジタル化の影響で本屋さんが減ってきている。子ども達が活字に触れる機会が減ってきているのではないかとという危惧感がある。学びの集中には紙が一番ではないかと思っている。中学校の部活動について。文部科学省も地域展開をすすめているがそれによって、子ども達が学校を離れることになり、学校の目が届かなくなることが心配である。

山中委員：みんな明るい児童が多い。今里の住宅開発がすすんでおり、今後もう少し人口が増える見込み。自治会に入会される方よりも退会される方のほうが多く、地域と家庭の関係が薄れていくのが残念に感じている。

曾我委員：インクルーシブ教育を通して相手を思いやる気持ちに子ども達が気づくのではないかと。また総合の学習を通していろいろな機関とつながる貴重な機会だと思っている。

佐々木委員：落ち着いて学習に取り組めるようになってきている学年もあり、成長を感じている。インクルーシブ教育について。支援級の児童が一緒の空間

で共に学ぶ環境の中で、大人になったときもいろいろな人がいるということを感じて止めるのではないかと感じている。これから夏休みになるが、子ども達の遊び場がせばめられているように感じる。子ども達に遊べる場所を教えたり、遊べる場所を増やしたりできる対応をしてあげたい。

小松委員：子どもの興味・好奇心は相変わらず強い。そういう興味のある部分をみんなで協力していけたらと思っている。インクルーシブ教育について。幼稚園ではみんな一緒に空間で過ごしていたが、小学校になると教室がわかれるなどしてしまう。学習面等配慮しながら一緒に過ごしていける環境づくりができれば。

金子委員：みんな元気だなという印象を受けた。学校アンケートで将来の目標がないと感じている児童がいることは寂しいことだ。

金子委員：6年生の絵が素晴らしかった。遠近法を使うなど自分の思いをしっかりと絵に表すことができている。給食について。食が自分達の体をつくっているということ、また食品が高騰化する中工夫をして献立をたて、給食を提供している行政の仕組みやありがたみを親から子ども達に伝えていってほしいと思っている

（7）その他

次回の学校運営協議会は、令和8年10月7日（水）13:30 から開催予定。